

分析結果を踏まえた今後の方向性・検討すべき事項

人口構造の変化による課題

- ◆ **医療需要の変化への対応**
 将来の推移をみると、高齢化による患者増と人口減少による患者減の双方が影響し、入院需要は令和22年までは若干増加し、その後は減少していく見込みとなっています。また、外来需要においては、令和2年以降一貫して減少していく見込みとなっています。以上のことから、自治体病院、地域の中核病院としての役割を担いつつ、地域医療構想、診療報酬改定等に対応した病床機能の見直しの検討を進めていきます。
- ◆ **生産労働人口の減少への対応**
 将来的な働き手不足の状況を踏まえると、医師・看護師をはじめとする医療従事者の確保が、安定した医療を提供するうえでの課題であります。そのため、今後の時代に即した魅力ある職場づくり、選ばれる職場づくりが必要であり、主な取り組みとしては、以下の項目などの検討・実施を進めていきます。
 - ・医師の確保策の実施
 働き方改革、採用活動の強化、資格取得・維持の支援、研修医等の積極的な受け入れ
 - ・看護師の確保策の実施
 夜勤負担軽減、時間外労働の削減、適正な評価と待遇の推進

経営面での課題

- ◆ **病床の有効利用と業務改善への対応**
 病床の稼働を上げるためのベッドの調整と業務改善のため、以下の取り組みを進めていく必要があります。
 - ・病床の有効利用
 感染症患者の受け入れを見据えつつ、救急患者を受け入れるための空床管理
 - ・入退院の連携体制の構築等
 外来から入院、退院への切れ目ない連携体制の構築と、入院に関わる業務のスリム化等
- ◆ **財務上の課題への対応**
 経営赤字が発生した場合に市から補助される基準外繰入金縮減と経営の黒字化を目指すため、診療体制の整備等による経営改善が喫緊の課題となっています。また、年々増加する人件費の抑制対策や物価高騰などにより増加した経費の削減対策のほか、建築から20年程が経過し老朽化した病院施設・設備の適正管理と整備費の抑制対策にも取り組む必要があります。

【健康と暮らしを守り・支え、未来を拓くコミュニティホスピタル】

地域医療構想等を踏まえた病院事業の果たすべき役割・機能

- 1 **地域に密着したコミュニティホスピタルを目指す**
 - 地域密着型病院として、総合診療を軸とした医療、リハビリ、栄養管理等の提供
 - 在宅医療への積極的な取り組みと、外来・入院から在宅までの切れ目ない支援
- 2 **自治体病院として総合的な医療や各種診療体制の整備維持に取り組む**
 - 病床機能の最適化
 - 救急医療体制の強化
 - 小児・周産期医療の維持
 - 地域包括ケアシステムの中核として「治し、支える医療」の提供
- 3 **関係機関との連携体制を強化し地域包括ケアシステムの充実に取り組む**
 - 東御市総合福祉センターや身体教育医学研究所との連携による予防医療、健康増進、福祉、介護への貢献
 - 東御市民病院とみまき温泉診療所の連携による、安心して療養できる環境の整備
 - 地域における多職種連携を深めることによる、医療機関や福祉・介護施設との紹介・逆紹介の向上
- 4 **「更なる」医療の質向上に継続的に取り組む**
 - 医療安全管理体制及び感染防止対策の強化
 - 多職種によるチーム医療の推進
 - 施設・設備の最適化・デジタル化への対応
- 5 **地域とのつながりを重視したネットワークづくりに取り組む**
 - 医療・介護の連携強化による訪問診療の充実
 - 訪問看護・訪問リハビリの実施における地域ケア関係機関との連携
- 6 **地域医療提供の為に人材の確保・育成、働き方改革の実現にむけて取り組む**
 - 医師の働き方改革の継続実施
 - 専門・認定看護師の確保、育成等による体制の充実
 - 業務改善・効率化の推進